

表 4. 高血圧性脳出血における糖尿病有無による各項目の比較

グループ統計量^a

	糖尿病有無 糖尿病有無	N	平均値	標準偏差	平均値の標準誤差
年齢 年齢	1 有	14	73.36	7.860	2.101
	0 無	101	69.72	9.064	.902
発症後入院病日 発症後入院病日	1 有	14	1.21	.579	.155
	0 無	101	1.11	.372	.037
在院日数 在院日数	1 有	14	30.71	15.973	4.269
	0 無	101	28.75	12.514	1.245
発症後退院病日	1 有	14	30.9286	16.23133	4.33801
	0 無	101	28.8614	12.55391	1.24916
リハ開始病日1	1 有	14	3.5000	2.06621	.55222
	0 無	101	3.6436	2.62520	.26122
リハ開始入院病日1	1 有	14	3.1429	1.87523	.50118
	0 無	101	3.3663	2.39049	.23786
FIM合計1 入院時FIM合計	1 有	14	31.36	16.514	4.414
	0 無	101	45.56	27.630	2.749
FIM合計2 退院時FIM合計	1 有	14	49.71	35.847	9.580
	0 無	101	76.53	37.211	3.703
PT保険請求分単位数合計	1 有	14	33.64	25.006	6.683
	0 無	101	46.76	43.673	4.346
OT保険請求分単位数合計	1 有	14	32.07	29.611	7.914
	0 無	101	42.40	36.589	3.641
ST保険請求分単位数合計	1 有	14	15.21	18.856	5.040
	0 無	101	21.14	23.108	2.299
リハ単位合計	1 有	14	80.9286	63.32027	16.92305
	0 無	101	110.2970	93.52161	9.30575
一日あたりリハ単位	1 有	14	2.7823	2.33963	.62529
	0 無	101	3.6492	2.39753	.23856
発病前Rankin 発病前Rankin	1 有	14	1.29	1.637	.438
	0 無	101	.52	1.180	.117
入院時Rankin 入院時Rankin	1 有	14	4.64	.633	.169
	0 無	101	4.37	1.007	.100
退院時Rankin 退院時Rankin	1 有	14	4.07	1.269	.339
	0 無	101	3.43	1.337	.133
NIHSS総合点1 入院時NIHSS総合点	1 有	14	13.00	12.184	3.256
	0 無	101	8.94	8.767	.872
NIHSS総合点2 退院時NIHSS総合点	1 有	14	10.71	10.216	2.730
	0 無	101	6.80	8.072	.803
NIHSS変化 NIHSS変化	1 有	14	2.29	4.008	1.071
	0 無	101	2.14	3.069	.305
FIM改善度 FIM改善度	1 有	14	18.3571	22.97359	6.13995
	0 無	101	30.9703	26.57949	2.64476
FIM改善率 FIM改善率	1 有	14	1.1571	2.04744	.54720
	0 無	101	1.3092	1.47237	.14651
入院motorFIM 入院motorFIM	1 有	14	15.6429	6.12193	1.63615
	0 無	101	24.4851	19.86082	1.97623
退院motorFIM 退院motorFIM	1 有	14	31.6429	25.51502	6.81918
	0 無	101	51.8614	28.80522	2.86623
入院cognitiveFIM 入院cognitiveFIM	1 有	14	15.7143	11.95780	3.19586
	0 無	101	21.0792	11.11637	1.10612
退院cognitiveFIM 退院cognitiveFIM	1 有	14	18.0714	12.59710	3.36672
	0 無	101	24.6733	10.19618	1.01456
motorFIM改善度 motorFIM改善度	1 有	14	16.0000	22.00000	5.87975
	0 無	101	27.3762	24.10678	2.39871
motorFIM改善率 motorFIM改善率	1 有	14	1.0627	1.96040	.52394
	0 無	101	1.1770	1.37553	.13687
cognitiveFIM改善度 cognitiveFIM改善度	1 有	14	2.3571	3.99244	1.06702
	0 無	101	3.5941	5.61637	.55885
cognitiveFIM改善率 cognitiveFIM改善率	1 有	14	.0944	.20012	.05348
	0 無	101	.1322	.26839	.02671
mRS改善度	1 有	14	.57	.852	.228
	0 無	101	.94	1.008	.100
入院FIM移乗	1 有	14	3.14	.535	.143
	0 無	101	5.21	4.579	.456
退院FIM移乗	1 有	14	7.43	5.598	1.496
	0 無	101	11.88	6.558	.653

a. 入院病棟の種別 入院病棟の種別 = 1 一般, 確定脳卒中病型中分類 確定脳卒中病型中分類 = 5 脳出血(高血圧性)

* : p<0.05

表 5. 従属変数を退院 FIM とした重回帰分析の結果

モデル		非標準化係数		標準化係数	t	有意確率	B の 95% 信頼区間	
		B	標準誤差	ベータ			下限	上限
1	(定数)	107.438	9.859		10.897	.000	88.076	126.800
	性別 性別	.663	1.644	.009	.404	.687	-2.565	3.892
	年齢 年齢	-.464	.107	-.098	-4.332	.000	-.674	-.254
	FIM合計1 入院時FIM合計	.552	.034	.510	16.301	.000	.486	.619
	一日あたりリハ単位	.699	.531	.044	1.317	.188	-.343	1.742
	発病前Rankin 発病前Rankin	-4.757	.703	-.178	-6.765	.000	-6.138	-3.376
	高血圧有無 高血圧有無	-1.433	1.701	-.019	-.842	.400	-4.773	1.907
	脳卒中既往歴 脳卒中既往歴	-.953	1.308	-.018	-.729	.467	-3.522	1.616
	NIHSS総合点1 入院時NIHSS総合点	-1.331	.128	-.298	-10.415	.000	-1.582	-1.080
	リハ医 リハ医	4.867	2.637	.058	1.846	.065	-.312	10.045
	カンファレンスの実施状況							
	カンファレンスの実施状況	-1.088	1.510	-.016	-.721	.471	-4.053	1.877
	リハ開始病日1	-.818	.356	-.055	-2.293	.022	-1.518	-.117
	アテローム血栓性脳梗塞							
	アテローム血栓性脳梗塞	.868	2.001	.011	.434	.665	-3.062	4.798
	心原性脳塞栓 心原性脳塞栓	-3.842	2.488	-.037	-1.544	.123	-8.729	1.045
	高血圧性脳出血 高血圧性脳出血	-5.862	2.487	-.063	-2.357	.019	-10.746	-.978
	糖尿病有無 糖尿病有無	-4.712	2.115	-.048	-2.228	.026	-8.865	-.558

- a. 従属変数: FIM合計2 退院時FIM合計
 b. 入院病棟の種別 入院病棟の種別 = 1 一般

モデル	R	R ² 乗	調整済み R ² 乗	推定値の標準誤差
1	.854 ^a	.730	.722	19.658

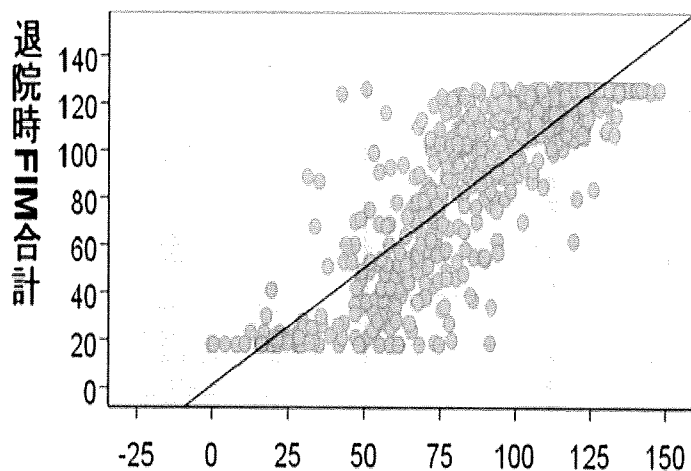


図 3 従属変数を退院 FIM とした回帰直線

脳卒中急性期リハビリテーション医療におけるリハ医の関与と治療成績 —多施設共同研究

研究代表者 近藤 克則 日本福祉大学 社会福祉学部 教授

【目的】リハビリテーション（以下リハ）医が関与することによって治療成績が改善するか否かを検討するため、リハ医の関与の有無別に治療成績を比較した。

【方法】厚労科研費（H19-長寿一般-028）を得て開発したリハ患者データベースに 2009 年 9 月までに登録された 30 病院 4451 人のデータを用いた。このうち急性期病院に直接入院した脳卒中患者（2696 人）で、年齢が 55 歳以上 85 歳未満、在院日数 8 日以上 60 日以下、発症後入院病日 7 日以下で、FIM データありの条件を満たす 9 病院の 1193 人を分析対象とした。まずリハ医の関与群（866 人）と関与なし群（327 人）の 2 群間に差が見られる因子を探索した。次に年齢、発症前 m-Rankin Scale、診断名、入院時 motor & cognitive FIM、入院時 NIHSS、訓練量、リハ医の関与を説明変数とし、治療成績（退院時 FIM）を目的変数とする重回帰分析を行った。

【結果】リハ医関与の有無別で患者像には有意差なく、治療成績は関与群で退院時 FIM 89.6、なし群で 87.8 と関与群で少し良かったが、関与群で PT・OT・ST 訓練単位数が多く病棟スタッフ訓練などがより多く実施されていたことによる可能性もある。そこで重回帰分析（ $R^2=0.77$ ）によって、発症前・入院時重症度、訓練量など上記の 7 変数を調整し分析を行った結果、リハ医関与群で退院時 FIM が 7%良いことを意味する標準化係数（ $p<0.01$ ）が得られた。

【結論】今回対象となった急性期病院においては、発症前・入院時の重症度、訓練量などが同等な脳卒中患者において、リハ医関与群で有意に治療成績（退院時 FIM）が良い可能性が示された。

V. 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果に関する一覧表 (2007-2009)

2007-2009

著者氏名	論文タイトル名
近藤克則	<p>【書籍】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 近藤克則他：「リハビリテーション実施状況」、『脳卒中データバンク 2009』, 小林祥泰編：46-47. 2009 2. 近藤克則他：「リハビリテーション患者データベースとの連携の可能性」、『脳卒中データバンク 2009』, 小林祥泰編：190-192, 2009 3. 近藤克則：『医療・福祉マネジメント福祉社会開発に向けて』ミネルヴァ書房, 2007. <p>【雑誌】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 鄭丞媛、近藤克則、井上祐介 (2010) 「リハビリテーションにおける「医療の質評価指標」開発に向けた因子分析」『日本医療経営学会誌』(印刷中) 2. Seungwon Jeong, Katsunori Kondo, et al (2010). An evaluation of the quality of post-stroke rehabilitation in Japan, <i>Clinical Audit</i> (in press) 3. 武田啓子, 白石成明, 柏原正尚, 鄭丞媛, 近藤克則：「回復期リハビリ病棟における在院日数 150 日を超える患者の特徴 - リハビリテーション患者データベース登録データを活用して - 健康科学論集」(印刷中) 4. 近藤克則・鄭丞媛 (2010) 「オーバービュー：症例登録データベースの現状と課題」『JOURNAL OF CLINICAL REHABILITATION』19, (4), 377-382 . 5. 近藤克則 (2009.02.20) 「第 1 章 4.保健・医療・福祉の連携 (介護保険制度)」米.監.石.石.江. 宮野佐年 (編集)「最新リハビリテーション医学 第 2 版」医歯薬出版, 18-23. 6. 近藤克則 (2009) 「医療・介護保険制度改革とリハビリテーション医学の課題」『Jpn J Rehabil Med 46』46, (1), 41-46. 7. 白石成明・近藤克則 (2009) 「日常生活動作 (ADL) の評価と帰結予測」『Current Therapy』27, (1), 57-62. 8. 鄭丞媛, 近藤克則, 井上祐介：「米国における医療の質に基づく支払 (pay for performance : P4P) の動向と日本への示唆(上)」社会保険旬報 2396(8.11)：10-15, 2009 9. 鄭丞媛、近藤克則、井上祐介 (2009) 「米国における医療の質における支払 (P4P) の動向と日本への示唆 (下)」『社会保険旬報』2397 (2009.08.21), 20-34. 10. 中崎喜英, 伊勢眞樹：「倉敷における脳卒中・地域完結型リハビリテーション」, <i>Monthly Book Medical Rehabilitation</i>. 102 : 53-62, 2009 11. 伊勢眞樹他：「脳卒中リハビリテーションデータベースを用いたリハビリテーション科医と脳卒中科医のリハビリテーション処方の比較」リハビリテーション医学, 45 : S247, 2008

12. 近藤克則, 山口明, 伊勢眞樹, 宮井一郎, 山鹿眞紀夫:「リハビリテーションにおける帰結研究-脳卒中を中心に. 大規模データベースとデータバンク」, 総合リハビリテーション 36(1):23-27, 2008
13. 門祐輔, 中村紀子, 中川裕美子, 松灘里佳, 中川雄二, 山鹿眞紀夫, 近藤克則:「脳卒中の地域連携と「効率」-脳卒中リハビリテーション患者データバンクに基づく検討-」, The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine VOL. 45 特別号: S248, 2008.
14. 寺崎修司, 山鹿眞紀夫, 伊勢眞樹, 近藤克則, 小林祥泰, 山口明, 宮井一郎:「脳卒中データバンクと脳卒中リハビリテーションデータバンクの連結の試み」, The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine VOL. 45 特別号: S248, 2008.
15. 近藤克則, 伊勢眞樹, 宮井一郎, 山鹿眞紀夫, 山口明, 西村尚志, 鴨下博, 原寛美, 寺崎修司, 豊田章宏:「脳卒中リハビリテーション患者データバンクの到達点と課題」, The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine VOL. 45 特別号: S207, 2008.
16. 伊勢眞樹, 近藤克則, 山口明, 山鹿眞紀夫, 宮井一郎, 寺崎修司, 豊田章宏, 原寛美, 鴨下博, 西山尚志:「脳卒中リハビリテーションバンクを用いたリハビリテーション科医と脳卒中科医のリハビリテーション処方と比較」, The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine VOL. 45 特別号: S247, 2008.

【学会発表】

1. 松本大輔, 白石成明, 鄭丞媛, 小嶋健一, 柏原正尚, 杉山統哉, 武田啓子, 近藤克則:「糖尿病の有無が脳卒中患者のリハビリテーションの帰結に与える影響-リハビリテーション患者データバンクを用いた検討-」, 第45回日本理学療法学会学術大会(2010, 岐阜) 口述発表予定
2. Hitoshi Shimada, MD, PhD, Toshiomi Asahi, MD, Miki Ohgushi, MD, PhD, Chika Tanaka, MD, Sunwon Jeong, Hitoshi Nishimura, MD, PhD, Tadato Oikawa, MD, Makio Yamaga, MD, PhD, Katsunori Kondo, MD, PhD.: Obstructive factors of the physical rehabilitation in elderly patients with cognitive decline. The Alzheimer's Association International Conference on Alzheimer's Disease (ICAD) 2010.7 発表予定
3. 大串幹, 田中智香, 山鹿眞紀夫, 西村一志, 旭俊臣, 及川忠人, 島田斉, 本田佳子, 鄭丞媛, 近藤克則:「大腿骨頸部骨折リハビリ DB の開発(第6報) 在院日数関連因子の状況・多施設共同研究」, 第47回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2010. 5 発表予定
4. 杉山統哉, 田中宏太佳, 鄭丞媛, 松本大輔, 近藤克則:「脳卒中患者の歩行自立に影響する因子についての検討-リハビリテーション患者データバンクを使用して-」, 第18回愛知県理学療法学会学術大会(2010. 3. 7, 愛知) 口述発表予定
5. 杉山統哉, 田中宏太佳, 鄭丞媛, 松本大輔, 近藤克則:「介護力の有無が脳卒中患者

	<p>の歩行状態に与える影響についてーリハビリテーション患者データベースを使用し てー」, 第45回日本理学療法学会(2010, 岐阜)発表予定</p> <p>6. 大串幹, 田中智香, 山鹿眞紀夫, 西村一志, 旭俊臣, 及川忠人, 島田斉, 本田佳子, 水田博志, 近藤克則:「大腿骨頸部骨折リハ患者データベースの開発とデータ概要」, 第4回リハビリテーション科専門医会学会, 2009.10</p> <p>7. 島田斉, 旭俊臣, 山鹿眞紀夫, 田中智香, 大串幹, 西村一志, 及川忠人, 近藤克 則:「認知症はリハビリテーションの阻害因子となり得るか?認知症患者のリハビリ テーション患者データベース開発に関する研究」, 第46回日本リハビリテーション医 学会学会, 一般演題(口演), 2009.6</p> <p>8. 田中智香, 大串幹, 山鹿眞紀夫, 西村一志, 旭俊臣, 及川忠人, 島田斉, 近藤克則: 「大腿骨頸部骨折リハ患者データベースの開発(第3報)入力支援」, 第46回日 本リハビリテーション医学会学会, 一般演題(ポスター), 2009.6</p> <p>9. 大串幹, 田中智香, 山鹿眞紀夫, 西村一志, 旭俊臣, 及川忠人, 島田斉, 近藤克則: 「大腿骨頸部骨折リハ患者データベースの開発(第4報)データ概要」, 第46 回日本リハビリテーション医学会学会, 一般演題(ポスター), 2009.6</p> <p>10. 近藤克則, 鄭丞媛, 伊勢眞樹, 宮井一郎, 山鹿眞紀夫, 山口明, 旭俊臣, 大串幹, 嶋下博, 原寛美, 西村尚志, 吉田清和, 寺崎修司, 豊田章宏, 小林祥泰:「リハビリ テーション患者データベース登録データを用いた病院間比較(第1報)治療成績ベンチ マークの開発」, 第46回日本リハビリテーション医学会学会, 一般演題(口演), 2009.6</p> <p>11. 近藤克則, 鄭丞媛, 伊勢眞樹, 宮井一郎, 山鹿眞紀夫, 山口明, 旭俊臣, 大串幹, 嶋下博, 西村尚志, 原寛美, 吉田清和, 寺崎修司, 豊田章宏, 小林祥泰:「リハビリ テーション患者データベース登録データを用いた病院間比較(第2報)ベンチマーク指 標の妥当性」, 第46回日本リハビリテーション医学会学会, 一般演題(口演), 2009.6</p> <p>12. 近藤克則他:「脳卒中リハビリテーション患者データベースの現状と課題」, 第43回 日本作業療法学会(2009年6月福島)</p> <p>13. 近藤克則他:「リハビリテーション医療における「治療成績」の病院間比較 PT・OT・ STの訓練量を中心に」, 第43回日本作業療法学会(2009年6月福島)</p> <p>14. 近藤克則他:「リハビリテーション患者データベースによる一般病棟脳卒中患者の帰 結予測に関する研究」, 第44回日本理学療法学会(2009年5月東京)</p> <p>15. 近藤克則他:「脳卒中リハビリテーション患者データベース登録データの病型分類に よる基礎解析」, 第44回日本理学療法学会(2009年5月東京)</p> <p>16. 門祐輔, 中村紀子, 中川裕美子, 松灘里佳, 中川雄二, 山鹿眞紀夫, 近藤克則:「脳 卒中の地域連携と「効率」(第2報)ー脳卒中リハビリテーションに基づく検討」, 第46回日本リハビリテーション医学会学会, 2009.</p>
--	---

- | | |
|--|--|
| | <ol style="list-style-type: none">17. 寺崎修司, 山鹿眞紀夫, 伊勢眞樹, 近藤克則, 小林祥泰, 山口明, 宮井一郎:「脳卒中データバンク (DB) とリハビリDBとのデータ連結の脳卒中地域連携パスへの応用の試み」, 第46回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2009.18. 伊勢眞樹, 近藤克則, 山口明, 山鹿眞紀夫, 宮井一郎, 寺崎修司, 豊田章宏, 原寛美, 鴨下博, 西山尚志:「リハビリテーション患者データバンクの登録データによる Barthel Index効率と関連する因子の基本的検討」, 第46回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2009.19. 大串幹, 山鹿眞紀夫, 西村一志, 吉田清和, 旭俊臣, 金澤親良, 田中智香, 本田佳子, 水田博志, 近藤克則:「大腿骨頸部骨折患者データベースの開発の試み (第1報) 概要と基本コンセプト」, 第45回日本リハビリテーション医学会学術集会, 一般演題 (口演), 2008.620. 田中智香, 大串幹, 山鹿眞紀夫, 近藤克則, 旭俊臣, 及川忠人, 西村一志, 金澤親良, 中村哲雄:「大腿骨頸部骨折患者データベースの開発の試み (第2報) 基本仕様と入力項目の紹介」, 第45回日本リハビリテーション医学会学術集会, 一般演題 (口演), 2008.6 |
|--|--|

山口 明	<p>【雑誌】</p> <ol style="list-style-type: none"> 山口明：「リハビリテーション患者データバンク」，臨床リハビリテーション，連載企画，19巻，2010(投稿中)。 近藤克則，山口明，伊勢眞樹，宮井一郎，山鹿眞紀夫：「リハビリテーションにおける帰結研究-脳卒中を中心に. 大規模データベースとデータバンク」，総合リハビリテーション 36(1)：23-27，2008。 山鹿眞紀夫，田中智香，伊勢眞樹，山口明，伊勢眞樹，宮井一郎，鴨下博，原寛美，西村尚志，門祐輔，寺崎修司：「2006年度診療報酬改定前後での脳卒中リハビリテーション状況の変化-脳卒中リハビリテーション患者データバンク登録データによる検討-」 The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine VOL. 45 特別号：S207，2008。 寺崎修司，山鹿眞紀夫，伊勢眞樹，近藤克則，小林祥泰，山口明，宮井一郎：「脳卒中データベースと脳卒中リハビリテーションデータベースの連結の試み」 The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine VOL. 45 特別号：S248，2008。 近藤克則，伊勢眞樹，宮井一郎，山鹿眞紀夫，山口明，西村尚志，鴨下博，原寛美，寺崎修司，豊田章宏：「脳卒中リハビリテーション患者データバンクの到達点と課題」 The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine VOL. 45 特別号：S207，2008。 伊勢眞樹，近藤克則，山口明，山鹿眞紀夫，宮井一郎，寺崎修司，豊田章宏，原寛美，鴨下博，西山尚志：「脳卒中リハビリテーションバンクを用いたリハビリテーション科医と脳卒中科医のリハビリテーション処方と比較」 The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine VOL. 45 特別号：S247，2008。 <p>【学会発表】</p> <ol style="list-style-type: none"> 近藤克則，鄭丞媛，伊勢眞樹，宮井一郎，山鹿眞紀夫，山口明，旭俊臣，大串幹，鴨下博，西村尚志，原寛美，吉田清和，寺崎修司，豊田章宏，小林祥泰：「リハビリテーション患者データバンク登録データを用いた病院間比較(第2報)ベンチマーク指標の妥当性」，第46回日本リハビリテーション医学会学術集会，一般演題(口演) 2009.6 近藤克則，鄭丞媛，伊勢眞樹，宮井一郎，山鹿眞紀夫，山口明，旭俊臣，大串幹，鴨下博，原寛美，西村尚志，吉田清和，寺崎修司，豊田章宏，小林祥泰：「リハビリテーション患者データバンク登録データを用いた病院間比較(第1報)治療成績ベンチマークの開発」，第46回日本リハビリテーション医学会学術集会，一般演題(口演) 2009.6. 山口明：「脳卒中リハビリテーションデータベース開発の研究(第2報)」，日本脳卒中学会，2009.3.22，松江。 山鹿眞紀夫，田中智香，伊勢眞樹，山口明，伊勢眞樹，宮井一郎，鴨下博，原寛美，
------	--

西村尚志, 門祐輔, 寺崎修司:「2006/2008年度診療報酬改定前後での脳卒中リハ状況の変化—脳卒中リハ患者DB登録データによる検討」, 第46回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2009.

5. 寺崎修司, 山鹿真紀夫, 伊勢真樹, 近藤克則, 小林祥泰, 山口明, 宮井一郎:「脳卒中データバンク(DB)とリハビリDBとのデータ連結の脳卒中地域連携パスへの応用の試み」, 第46回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2009.
6. 伊勢真樹, 近藤克則, 山口明, 山鹿真紀夫, 宮井一郎, 寺崎修司, 豊田章宏, 原寛美, 鴨下博, 西山尚志:「リハビリテーション患者データバンクの登録データによる Barthel Index効率と関連する因子の基本的検討」, 第46回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2009.

【報告書】

山口明他:「高齢者の地域リハビリテーション体制の構築に関する研究」, 厚生労働科学研究費補助金・長寿科学総合研究事業, 平成17~18年度総合研究報告書. 同平成18年度総括研究報告書.

伊勢眞樹

【書籍】

「急性期・回復期リハの連携と今後の方向性」, 『脳卒中リハビリテーション連携パス基本と実践のポイント』, 日本リハビリテーション医学会監, 医学書院: 206, 2007

【雑誌】

1. 中崎喜英, 伊勢眞樹: 「倉敷における脳卒中・地域完結型リハビリテーション」, Monthly Book Medical Rehabilitation, 102: 53-62, 2009
2. 伊勢眞樹他: 「リハビリテーション患者データバンクの登録データによる Barthel Index 効率と関連する因子の基礎的検討」, リハビリテーション医学, 46: S305, 2009
3. 伊勢眞樹他: 「脳卒中リハビリテーションデータバンクを用いたリハビリテーション科医と脳卒中科医のリハビリテーション処方法の比較」, リハビリテーション医学, 45: S247, 2008
4. 近藤克則, 山口明, 伊勢眞樹, 宮井一郎, 山鹿眞紀夫: 「リハビリテーションにおける帰結研究-脳卒中を中心に. 大規模データベースとデータバンク」, 総合リハビリテーション, 36(1): 23-27, 2008
5. 山鹿眞紀夫, 田中智香, 伊勢眞樹, 山口明, 伊勢眞樹, 宮井一郎, 鴨下博, 原寛美, 西村尚志, 門祐輔, 寺崎修司: 「2006年度診療報酬改定前後での脳卒中リハビリテーション状況の変化-脳卒中リハビリテーション患者データバンク登録データによる検討-」, The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine VOL. 45 特別号: S207, 2008.
6. 寺崎修司, 山鹿眞紀夫, 伊勢眞樹, 近藤克則, 小林祥泰, 山口明, 宮井一郎: 「脳卒中データバンクと脳卒中リハビリテーションデータバンクの連結の試み」, The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine VOL. 45 特別号: S248, 2008.
7. 近藤克則, 伊勢眞樹, 宮井一郎, 山鹿眞紀夫, 山口明, 西村尚志, 鴨下博, 原寛美, 寺崎修司, 豊田章宏: 「脳卒中リハビリテーション患者データバンクの到達点と課題」, The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine VOL. 45 特別号: S207, 2008.
8. 伊勢眞樹, 近藤克則, 山口明, 山鹿眞紀夫, 宮井一郎, 寺崎修司, 豊田章宏, 原寛美, 鴨下博, 西村尚志: 「脳卒中リハビリテーションバンクを用いたリハビリテーション科医と脳卒中科医のリハビリテーション処方法の比較」, The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine VOL. 45 特別号: S247, 2008.

【学会発表】

1. 近藤克則, 鄭丞媛, 伊勢眞樹, 宮井一郎, 山鹿眞紀夫, 山口明, 旭俊臣, 大串幹, 鴨下博, 西村尚志, 原寛美, 吉田清和, 寺崎修司, 豊田章宏, 小林祥泰: 「リハビリテーション患者データバンク登録データを用いた病院間比較(第2報)ベンチマーク指標の妥当性」, 第46回日本リハビリテーション医学会学術集会, 一般演題(口演), 2009. 6

2. 近藤克則, 鄭丞媛, 伊勢眞樹, 宮井一郎, 山鹿眞紀夫, 山口明, 旭俊臣, 大串幹, 鴨下博, 原寛美, 西村尚志, 吉田清和, 寺崎修司, 豊田章宏, 小林祥泰:「リハビリテーション患者データバンク登録データを用いた病院間比較(第1報)治療成績ベンチマークの開発」, 第46回日本リハビリテーション医学会学術集会, 一般演題(口演), 2009.6
3. 山鹿眞紀夫, 田中智香, 伊勢眞樹, 山口明, 伊勢眞樹, 宮井一郎, 鴨下博, 原寛美, 西村尚志, 門祐輔, 寺崎修司:「2006/2008年度診療報酬改定前後での脳卒中リハ状況の変化—脳卒中リハ患者DB登録データによる検討」, 第46回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2009.
4. 寺崎修司, 山鹿眞紀夫, 伊勢眞樹, 近藤克則, 小林祥泰, 山口明, 宮井一郎:「脳卒中データバンク(DB)とリハビリDBとのデータ連結の脳卒中地域連携パスへの応用の試み」, 第46回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2009.
5. 伊勢眞樹, 近藤克則, 山口明, 山鹿眞紀夫, 宮井一郎, 寺崎修司, 豊田章宏, 原寛美, 鴨下博, 西山尚志:「リハビリテーション患者データバンクの登録データによる Barthel Index 効率と関連する因子の基本的検討」, 第46回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2009.
6. 伊勢眞樹:「脳卒中リハデータバンクを用いたリハ科医と脳卒中科医のリハ処方と比較」, 第45回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2008.6. 横浜.
7. 伊勢眞樹他:「脳卒中リハデータバンクを用いたリハ科医と脳卒中科医のリハ処方と比較」, 第45回日本リハビリテーション医学会学術集会, 一般演題(口演), 2008.6. 横浜.

【その他】

伊勢眞樹・小原謙一:リハビリテーション患者DBの分析. 平成19-21年度厚生労働科学研究費補助金(長寿科学総合研究事業)

山鹿眞紀夫	<p>【雑誌】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 山鹿眞紀夫：「回復期リハにおける電子カルテの検証と展望－チーム医療の中での電子カルテの運用と課題－」, 全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会第13回研究大会 in 大阪 抄録集：30, 2009. 2. 近藤克則, 山口明, 伊勢眞樹, 宮井一郎, 山鹿眞紀夫：「リハビリテーションにおける帰結研究-脳卒中を中心に. 大規模データベースとデータバンク」, 総合リハビリテーション 36(1):23-27, 2008 3. 山鹿眞紀夫, 田中智香, 伊勢眞樹, 山口明, 伊勢眞樹, 宮井一郎, 鴨下博, 原寛美, 西村尚志, 門祐輔, 寺崎修司：「2006年度診療報酬改定前後での脳卒中リハビリテーション状況の変化－脳卒中リハビリテーション患者データバンク登録データによる検討－」, The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine VOL. 45 特別号: S207, 2008. 4. 門祐輔, 中村紀子, 中川裕美子, 松灘里佳, 中川雄二, 山鹿眞紀夫, 近藤克則：「脳卒中の地域連携と「効率」－脳卒中リハビリテーション患者データバンクに基づく検討－」, The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine VOL. 45 特別号: S248, 2008. 5. 寺崎修司, 山鹿眞紀夫, 伊勢眞樹, 近藤克則, 小林祥泰, 山口明, 宮井一郎：「脳卒中データバンクと脳卒中リハビリテーションデータバンクの連結の試み」, The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine VOL. 45 特別号: S248, 2008. 6. 近藤克則, 伊勢眞樹, 宮井一郎, 山鹿眞紀夫, 山口明, 西村尚志, 鴨下博, 原寛美, 寺崎修司, 豊田章宏：「脳卒中リハビリテーション患者データバンクの到達点と課題」, The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine VOL. 45 特別号: S207, 2008. 7. 伊勢眞樹, 近藤克則, 山口明, 山鹿眞紀夫, 宮井一郎, 寺崎修司, 豊田章宏, 原寛美, 鴨下博, 西山尚志：「脳卒中リハビリテーションバンクを用いたリハビリテーション科医と脳卒中科医のリハビリテーション処方方の比較」, The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine VOL. 45 特別号: S247, 2008. 8. 大串幹, 山鹿眞紀夫, 西村一志, 吉田清和, 旭俊臣, 金澤親良, 田中智香, 本田佳子, 水田博志, 近藤克則：「大腿骨頸部骨折患者データベース開発の試み（第1報）概要と基本コンセプト」, The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine VOL. 45 特別号: S258, 2008. 9. 田中智香, 大串幹, 山鹿眞紀夫, 近藤克則, 旭俊臣, 及川忠人, 西村一志, 金澤親良, 中村哲雄：「大腿骨頸部骨折患者データベース開発の試み（第2報）基本仕様と入力項目の紹介」, The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine VOL. 45 特別号: S258, 2008. <p>【学会発表】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Hitoshi Shimada, MD, PhD, Toshiomi Asahi, MD, Miki Ohgushi, MD, PhD, Chika
-------	---

Tanaka, MD, Sunwon Jeong, Hitoshi Nishimura, MD, PhD, Tadato Oikawa, MD, Makio Yamaga, MD, PhD, Katsunori Kondo, MD, PhD.: Obstructive factors of the physical rehabilitation in elderly patients with cognitive decline. The Alzheimer's Association International Conference on Alzheimer's Disease (ICAD) 2010.7 発表予定

2. 大串幹, 田中智香, 山鹿眞紀夫, 西村一志, 旭俊臣, 及川忠人, 島田斉, 本田佳子, 鄭丞媛, 近藤克則:「大腿骨頸部骨折リハビリ DB の開発 (第 6 報) 在院日数関連因子の状況・多施設共同研究」, 第 47 回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2010.5 発表予定
3. 大串幹, 田中智香, 山鹿眞紀夫, 西村一志, 旭俊臣, 及川忠人, 島田斉, 本田佳子, 水田博志, 近藤克則:「大腿骨頸部骨折リハ患者データバンクの開発とデータ概要」, 第 4 回リハビリテーション科専門医会学術集会, 2009.10
4. 島田斉, 旭俊臣, 山鹿眞紀夫, 田中智香, 大串幹, 西村一志, 及川忠人, 近藤克則:「認知症はリハビリテーションの阻害因子となり得るか? 認知症患者のリハビリテーション患者データバンク開発に関する研究」, 第 46 回日本リハビリテーション医学会学術集会, 一般演題(口演), 2009.6
5. 大串幹, 田中智香, 山鹿眞紀夫, 西村一志, 旭俊臣, 及川忠人, 島田斉, 近藤克則:「大腿骨頸部骨折リハビリ患者データバンクの開発 (第 4 報) データ概要」, 第 46 回日本リハビリテーション医学会学術集会, 一般演題(ポスター), 2009.6
6. 田中智香, 大串幹, 山鹿眞紀夫, 西村一志, 旭俊臣, 及川忠人, 島田斉, 近藤克則:「大腿骨頸部骨折リハビリ患者データバンクの開発 (第 3 報) 運用と入力支援」, 第 46 回日本リハビリテーション医学会学術集会, 一般演題(ポスター), 2009.6
7. 近藤克則, 鄭丞媛, 伊勢眞樹, 宮井一郎, 山鹿眞紀夫, 山口明, 旭俊臣, 大串幹, 鴨下博, 西村尚志, 原寛美, 吉田清和, 寺崎修司, 豊田章宏, 小林祥泰:「リハビリテーション患者データバンク登録データを用いた病院間比較(第 2 報)ベンチマーク指標の妥当性」, 第 46 回日本リハビリテーション医学会学術集会, 一般演題(口演), 2009.6
8. 近藤克則, 鄭丞媛, 伊勢眞樹, 宮井一郎, 山鹿眞紀夫, 山口明, 旭俊臣, 大串幹, 鴨下博, 原寛美, 西村尚志, 吉田清和, 寺崎修司, 豊田章宏, 小林祥泰:「リハビリテーション患者データバンク登録データを用いた病院間比較(第 1 報)治療成績ベンチマークの開発」, 第 46 回日本リハビリテーション医学会学術集会, 一般演題(口演), 2009.6
9. 山鹿眞紀夫, 田中智香, 伊勢眞樹, 山口明, 伊勢眞樹, 宮井一郎, 鴨下博, 原寛美, 西村尚志, 門祐輔, 寺崎修司:「2006/2008 年度診療報酬改定前後での脳卒中リハ状況の変化—脳卒中リハ患者DB登録データによる検討」, 第 46 回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2009.
10. 門祐輔, 中村紀子, 中川裕美子, 松灘里佳, 中川雄二, 山鹿眞紀夫, 近藤克則:「脳卒中の地域連携と「効率」(第 2 報) —脳卒中リハビリテーションに基づく検討」, 第 46

回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2009.

11. 寺崎修司, 山鹿眞紀夫, 伊勢眞樹, 近藤克則, 小林祥泰, 山口明, 宮井一郎:「脳卒中データバンク (DB) とリハビリDBとのデータ連結の脳卒中地域連携パスへの応用の試み」, 第46回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2009.
12. 伊勢眞樹, 近藤克則, 山口明, 山鹿眞紀夫, 宮井一郎, 寺崎修司, 豊田章宏, 原寛美, 鴨下博, 西山尚志:「リハビリテーション患者データバンクの登録データによるBarthel Index効率と関連する因子の基本的検討」, 第46回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2009.
13. 田中智香, 大串幹, 山鹿眞紀夫, 近藤克則, 旭俊臣, 及川忠人, 西村一志, 金澤親良, 中村哲雄:「大腿骨頸部骨折患者データベースの開発の試み(第2報)基本仕様と入力項目の紹介」, 第45回日本リハビリテーション医学会学術集会, 一般演題(口演), 2008.6
14. 大串幹, 山鹿眞紀夫, 西村一志, 吉田清和, 旭俊臣, 金澤親良, 田中智香, 本田佳子, 水田博志, 近藤克則:「大腿骨頸部骨折患者データベースの開発の試み(第1報)概要と基本コンセプト」, 第45回日本リハビリテーション医学会学術集会, 一般演題(口演), 2008.6

鴨下 博

【書籍】

「北多摩北部二次医療圏における地域リハビリテーションの取り組みーリハビリ手帳についてー」, 『地域完結型のリハビリテーションの実践』, 山鹿眞紀夫編, 全日本病院出版会: 63-68, 2009.

【雑誌】

1. 山鹿眞紀夫, 田中智香, 伊勢眞樹, 山口明, 伊勢眞樹, 宮井一郎, 鴨下博, 原寛美, 西村尚志, 門祐輔, 寺崎修司: 「2006年度診療報酬改定前後での脳卒中リハビリテーション状況の変化ー脳卒中リハビリテーション患者データベース登録データによる検討ー」, The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine VOL.45 特別号: S207, 2008.
2. 近藤克則, 伊勢眞樹, 宮井一郎, 山鹿眞紀夫, 山口明, 西村尚志, 鴨下博, 原寛美, 寺崎修司, 豊田章宏: 「脳卒中リハビリテーション患者データベースの到達点と課題」, The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine VOL.45 特別号: S207, 2008.
3. 伊勢眞樹, 近藤克則, 山口明, 山鹿眞紀夫, 宮井一郎, 寺崎修司, 豊田章宏, 原寛美, 鴨下博, 西山尚志: 「脳卒中リハビリテーションバンクを用いたリハビリテーション科医と脳卒中科医のリハビリテーション処方比較」, The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine VOL.45 特別号: S247, 2008.

【学会発表】

1. 近藤克則, 鄭丞媛, 伊勢眞樹, 宮井一郎, 山鹿眞紀夫, 山口明, 旭俊臣, 大串幹, 鴨下博, 西村尚志, 原寛美, 吉田清和, 寺崎修司, 豊田章宏, 小林祥泰: 「リハビリテーション患者データベース登録データを用いた病院間比較(第2報)ベンチマーク指標の妥当性」, 第46回日本リハビリテーション医学会学術集会, 一般演題(口演), 2009.6
2. 近藤克則, 鄭丞媛, 伊勢眞樹, 宮井一郎, 山鹿眞紀夫, 山口明, 旭俊臣, 大串幹, 鴨下博, 原寛美, 西村尚志, 吉田清和, 寺崎修司, 豊田章宏, 小林祥泰: 「リハビリテーション患者データベース登録データを用いた病院間比較(第1報)治療成績ベンチマークの開発」, 第46回日本リハビリテーション医学会学術集会, 一般演題(口演), 2009.6
3. 山鹿眞紀夫, 田中智香, 伊勢眞樹, 山口明, 伊勢眞樹, 宮井一郎, 鴨下博, 原寛美, 西村尚志, 門祐輔, 寺崎修司: 「2006/2008年度診療報酬改定前後での脳卒中リハ状況の変化ー脳卒中リハ患者DB登録データによる検討」, 第46回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2009.
4. 近藤克則, 伊勢眞樹, 宮井一郎, 山鹿眞紀夫, 山口明, 西村尚志, 鴨下博, 原寛美, 寺崎修司, 豊田章宏: 「リハビリテーション患者データベース登録データを用いた病院間比較(第1報)治療成績ベンチマークの開発」, 第46回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2009.

- | | |
|--|---|
| | <p>5. 近藤克則, 伊勢眞樹, 宮井一郎, 山鹿眞紀夫, 山口明, 西村尚志, 鴨下博, 原寛美, 寺崎修司, 豊田章宏:「リハビリテーション患者データベース登録データを用いた病院間比較(第2報)ベンチマーク指標の妥当性」, 第46回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2009.</p> <p>6. 伊勢眞樹, 近藤克則, 山口明, 山鹿眞紀夫, 宮井一郎, 寺崎修司, 豊田章宏, 原寛美, 鴨下博, 西山尚志:「リハビリテーション患者データベースの登録データによる Barthel Index 効率と関連する因子の基本的検討」, 第46回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2009.</p> |
|--|---|

原 寛美

【雑誌】

1. 山鹿眞紀夫, 田中智香, 伊勢眞樹, 山口明, 伊勢眞樹, 宮井一郎, 鴨下博, 原寛美, 西村尚志, 門祐輔, 寺崎修司:「2006年度診療報酬改定前後での脳卒中リハビリテーション状況の変化ー脳卒中リハビリテーション患者データバンク登録データによる検討ー」, The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine VOL.45 特別号: S207, 2008.
2. 近藤克則, 伊勢眞樹, 宮井一郎, 山鹿眞紀夫, 山口明, 西村尚志, 鴨下博, 原寛美, 寺崎修司, 豊田章宏:「脳卒中リハビリテーション患者データバンクの到達点と課題」, The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine VOL.45 特別号: S207, 2008.
3. 伊勢眞樹, 近藤克則, 山口明, 山鹿眞紀夫, 宮井一郎, 寺崎修司, 豊田章宏, 原寛美, 鴨下博, 西山尚志:「脳卒中リハビリテーションバンクを用いたリハビリテーション科医と脳卒中科医のリハビリテーション処方と比較」, The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine VOL.45 特別号: S247, 2008.

【学会発表】

1. 近藤克則, 鄭丞媛, 伊勢眞樹, 宮井一郎, 山鹿眞紀夫, 山口明, 旭俊臣, 大串幹, 鴨下博, 西村尚志, 原寛美, 吉田清和, 寺崎修司, 豊田章宏, 小林祥泰:「リハビリテーション患者データバンク登録データを用いた病院間比較(第2報) ベンチマーク指標の妥当性」, 第46回日本リハビリテーション医学会学術集会, 一般演題(口演), 2009.6
2. 近藤克則, 鄭丞媛, 伊勢眞樹, 宮井一郎, 山鹿眞紀夫, 山口明, 旭俊臣, 大串幹, 鴨下博, 原寛美, 西村尚志, 吉田清和, 寺崎修司, 豊田章宏, 小林祥泰:「リハビリテーション患者データバンク登録データを用いた病院間比較(第1報)治療成績ベンチマークの開発」, 第46回日本リハビリテーション医学会学術集会, 一般演題(口演), 2009.6
3. 山鹿眞紀夫, 田中智香, 伊勢眞樹, 山口明, 伊勢眞樹, 宮井一郎, 鴨下博, 原寛美, 西村尚志, 門祐輔, 寺崎修司:「2006/2008年度診療報酬改定前後での脳卒中リハ状況の変化ー脳卒中リハ患者DB登録データによる検討」, 第46回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2009.
4. 伊勢眞樹, 近藤克則, 山口明, 山鹿眞紀夫, 宮井一郎, 寺崎修司, 豊田章宏, 原寛美, 鴨下博, 西山尚志:「リハビリテーション患者データバンクの登録データによるBarthel Index効率と関連する因子の基本的検討」, 第46回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2009.

【雑誌】

1. 山鹿眞紀夫, 田中智香, 伊勢眞樹, 山口明, 伊勢眞樹, 宮井一郎, 鴨下博, 原寛美, 西村尚志, 門祐輔, 寺崎修司:「2006年度診療報酬改定前後での脳卒中リハビリテーション状況の変化ー脳卒中リハビリテーション患者データバンク登録データによる検討ー」, The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine VOL. 45 特別号: S207, 2008.
2. 近藤克則, 伊勢眞樹, 宮井一郎, 山鹿眞紀夫, 山口明, 西村尚志, 鴨下博, 原寛美, 寺崎修司, 豊田章宏:「脳卒中リハビリテーション患者データバンクの到達点と課題」, The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine VOL. 45 特別号: S207, 2008.
3. 伊勢眞樹, 近藤克則, 山口明, 山鹿眞紀夫, 宮井一郎, 寺崎修司, 豊田章宏, 原寛美, 鴨下博, 西山尚志:「脳卒中リハビリテーションバンクを用いたリハビリテーション科医と脳卒中科医のリハビリテーション処方と比較」, The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine VOL. 45 特別号: S247, 2008.

【学会発表】

1. Hitoshi Shimada, MD, PhD, Toshiomi Asahi, MD, Miki Ohgushi, MD, PhD, Chika Tanaka, MD, Sunwon Jeong, Hitoshi Nishimura, MD, PhD, Tadato Oikawa, MD, Makio Yamaga, MD, PhD, Katsunori Kondo, MD, PhD.: Obstructive factors of the physical rehabilitation in elderly patients with cognitive decline. The Alzheimer's Association International Conference on Alzheimer's Disease (ICAD) 2010.7 発表予定
2. 大串幹, 田中智香, 山鹿眞紀夫, 西村一志, 旭俊臣, 及川忠人, 島田斉, 本田佳子, 鄭丞媛, 近藤克則:「大腿骨頸部骨折リハビリ DB の開発 (第6報) 在院日数関連因子の状況・多施設共同研究」, 第47回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2010.5 発表予定
3. 大串幹, 田中智香, 山鹿眞紀夫, 西村一志, 旭俊臣, 及川忠人, 島田斉, 本田佳子, 水田博志, 近藤克則:「大腿骨頸部骨折リハ患者データバンクの開発とデータ概要」, 第4回リハビリテーション科専門医会学術集会, 2009.10
4. 島田斉, 旭俊臣, 山鹿眞紀夫, 田中智香, 大串幹, 西村一志, 及川忠人, 近藤克則:「認知症はリハビリテーションの阻害因子となり得るか? 認知症患者のリハビリテーション患者データバンク開発に関する研究」, 第46回日本リハビリテーション医学会学術集会, 一般演題(口演), 2009.6
5. 田中智香, 大串幹, 山鹿眞紀夫, 西村一志, 旭俊臣, 及川忠人, 島田斉, 近藤克則:「大腿骨頸部骨折リハビリ患者データバンクの開発 (第3報) 運用と入力支援」, 第46回日本リハビリテーション医学会学術集会, 一般演題(ポスター), 2009.6
6. 大串幹, 田中智香, 山鹿眞紀夫, 西村一志, 旭俊臣, 及川忠人, 島田斉, 近藤克則:

「大腿骨頸部骨折リハビリ患者データベースの開発（第4報）データ概要」, 第46回日本リハビリテーション医学会学術集会, 一般演題(ポスター), 2009.6

7. 近藤克則, 鄭丞媛, 伊勢眞樹, 宮井一郎, 山鹿眞紀夫, 山口明, 旭俊臣, 大串幹, 鴨下博, 原寛美, 西村尚志, 吉田清和, 寺崎修司, 豊田章宏, 小林祥泰:「リハビリテーション患者データベース登録データを用いた病院間比較(第1報)治療成績ベンチマークの開発」, 第46回日本リハビリテーション医学会学術集会, 一般演題(口演), 2009.6
8. 近藤克則, 鄭丞媛, 伊勢眞樹, 宮井一郎, 山鹿眞紀夫, 山口明, 旭俊臣, 大串幹, 鴨下博, 西村尚志, 原寛美, 吉田清和, 寺崎修司, 豊田章宏, 小林祥泰:「リハビリテーション患者データベース登録データを用いた病院間比較(第2報)ベンチマーク指標の妥当性」, 第46回日本リハビリテーション医学会学術集会, 一般演題(口演), 2009.6
9. 山鹿眞紀夫, 田中智香, 伊勢眞樹, 山口明, 伊勢眞樹, 宮井一郎, 鴨下博, 原寛美, 西村尚志, 門祐輔, 寺崎修司:「2006/2008年度診療報酬改定前後での脳卒中リハ状況の変化—脳卒中リハ患者DB登録データによる検討」, 第46回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2009.
10. 伊勢眞樹, 近藤克則, 山口明, 山鹿眞紀夫, 宮井一郎, 寺崎修司, 豊田章宏, 原寛美, 鴨下博, 西山尚志:「リハビリテーション患者データベースの登録データによる Barthel Index 効率と関連する因子の基本的検討」, 第46回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2009.
11. 大串幹, 山鹿眞紀夫, 西村一志, 吉田清和, 旭俊臣, 金澤親良, 田中智香, 本田佳子, 水田博志, 近藤克則:「大腿骨頸部骨折患者データベースの開発の試み(第1報)概要と基本コンセプト」, 第45回日本リハビリテーション医学会学術集会, 一般演題(口演) 2008.6
12. 田中智香, 大串幹, 山鹿眞紀夫, 近藤克則, 旭俊臣, 及川忠人, 西村一志, 金澤親良, 中村哲雄:「大腿骨頸部骨折患者データベースの開発の試み(第2報)基本仕様と入力項目の紹介」, 第45回日本リハビリテーション医学会学術集会, 一般演題(口演), 2008.6